



しょうじくち
5代目 小路口 欣弘

ごあいさつ

早春の候、寒さもゆるみ一雨ごとに春の気配が高まっている今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

誠に個人的な話で恐縮なのですが、我が家ではこの3月に次女が幼稚園を卒業し4月から地元の市小学校に通うことになりました。子供の成長は本当に早いもので、つい最近生まれたような気がしていたのですが気付けばもう上から順に7才、6才、2才とありがたいことに三人共元気に育ってくれております。

父の方とは言いますと、まだまだ車イスから離れられない生活ではあるのですが、人と話したりすることは問題なく出来るようになるまで回復しており、本人もこの4月から週に2～3度のペースで入社するようにしております。お近くにお寄りの際は是非遊びにいらして下さい。

また、裏面の私の妻の記事にも書いているのですが、先日甲斐町の実家の掃除をしていたら昔の古いアルバムが出てきました。右の写真が昭和50年に亡くなった祖父がまだ若い頃の写真です。昭和30年頃だそうなんです。私も自分の家業が100年以上続いているという話は祖母や父からたくさん聞かされていましたが、今までこういった昔の写真がほとんど見たことがなかったので、改めて歴史を実感し、次の代に繋げていくということについて深く考えさせられました。

少し温かくなってきてはおりますが娘の小学校ではまだインフルエンザが流行し、学級閉鎖になっていると聞いておりますので皆様もお身体ご自愛頂き、ご家族皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



小路口石材通信

一期一会

vol: 21
2012, 3, 20



これ以前の写真は塚の大空襲で焼けてしまったそうです・・・

続 お墓にまつわるエピソード集 ～お墓物語～

タイトル 「田舎のお墓を訪れて」 78歳 男性(千葉県)

あなたのお墓参り体験談
大募集!



ご希望の方全員に
7プレゼント致します

久しぶりに田舎を訪れた。母と一緒に生活していた兄が突然に亡くなり、その後、兄嫁との関係が不穏になると、やむなく都会に住む私の家に住むようになった。生まれ育った田舎を年老いてから離れることは、母にとって特別複雑な思いであっただろう。望郷の念の断ち難い母の心情を身近に感じるにつけ、私の義姉に対する思いは、必ずしも好意的とは言えなかった。

その後、母が亡くなって、父、兄の眠るお墓に納骨こそしたが、遠隔の地でもあり、お墓参りの機会はめったになかった。冷静に考えてみれば、嫁、姑の関係は、一緒に生活すればこそ色々意見の相違もあり、好みも異なり、平穏な仲の良い生活を求める事は難しい事であつたろう。個性豊かな母であり、共に生活してみて、私は初めてその事を実感した。とは言え、いったんもつれた義姉との関係は改善される事もなく、数年の歳月が流れた。

久しぶりに訪れた田舎の駅は、無人の駅と化し、風雨にさらされていた。人里離れた山道をわけ入り、お墓の前にたたずむとそこには美しい花々が供えられ、蝋燭の火が灯り、線香の香りが一面に漂って、つい先ほどまで義姉が訪れていたことが伺えた。周りには一本の雑草もなく、美しく手入れが行き届き、義姉の配慮が身にしみた。

兄の子供達も独立して家を離れており、家には義姉一人が住んでいるはずである。母が都会の私の家で生活したのは五年に過ぎなかったが、義姉との生活は実に三十年以上であった。

墓前に手を合わせると、義姉との和解と交流を熱望する母の囁きが聞こえるような気がし、改めて過去の恩義と非礼を詫言るべく、生まれ育った家屋に一人住む義姉に会うべく自然に足が向いていた。



石屋の嫁のほのぼの日記



初めまして、5代目 小路口欣弘の妻、珠代と申します。
只今、3人娘の母として子育てに奮闘しております(´▽`)
石屋さんに嫁いではや9年目になろうとしていますが、子供がまだ小さい為、家業を手伝うに至っていませんが、たま～に会社で留守番しています。

私の実家は庵治石で有名な香川県高松市牟礼町で、私の祖父母も石屋でした。石に囲まれた環境で育ったせいか、今思うと夫とは必然的に出会った気がします。

先日、甲斐町の本家の物置を整理していたのですが小路口石材の歴史ともいえる昔の写真が出てきました。表面にある写真は三代目、夫の祖父にあたる勝美(写真中央後ろ)、日頃からお世話になっている『おばあちゃん』こと祖母の多恵子(左後ろ)、4～5才の頃の四代目で義父の勝一(中央前)とおばの深井祐子さん(左前)が並んでいます。

私がこの写真を見た時、まるで自分の実家の祖父母の写真を見ている様でした。夫ともよく話すのですが、『縁があつて・・・』という言葉がとて心に残っています。もしかして夫と私はご先祖様からのお導きがあつて出会ったのでは・・・と少々大げさですがふと思う時があります。

皆さんもお忙しい毎日と思いますが、ふと手を休め昔の写真を片手にご家族と語り、またお時間がありましたら是非お墓参りに出向いてはいかがでしょうか?私もこの写真を3人の娘達に見せてお墓参りに行こうと思います。



石を磨いている写真です。祖父と職人さんが二人掛かりで砥石をあてています。

石の端材 無料お持ち帰りサービスはじめました

弊社では建築工事などで石の端材がたくさんでます。まだ充分価値のある石の端材をそのまま捨てるのはもったいないので、お近くでご入り用の方がいれば、ぜひ有効活用していただくということで、石の端材

無料お持ち帰りサービスはじめました。写真のように店の前に専用ボックスを設け端材を入れておりますので、ご入り用の方はお持ち帰りください。工事等で出た端材ですので種類や大きさはバラバラですが近くに来られた際にはぜひ覗いてみて下さい。大きな物になると重量もかさみますので、お車などに積み込みの際は指詰めなどに十分ご注意ください。店のほうに声をかけていただきましたら私共がお手伝いさせていただきますので、遠慮なくお申し出下さい。



発行元

しょうじくち 小路口石材工業株式会社 〒591-8034 大阪府堺市北区百舌鳥陵南町1-13

フリーダイヤル 0120-78-5461 fax 072-278-5463

HP http://sakai-boseki.com e-mail info@sakai-boseki.com

BLOG http://ameblo.jp/ring-of-happiness/

感想お待ちしております!



去る、1月25日第9回お墓ディレクター検定が開催されました。
お墓ディレクター検定とは、宗教に関することやお墓の歴史、墓石の素材、加工方法、そして墓地や霊園についての法律についてなど「お墓」に関する幅広い知識の習得を目的として一般社団法人日本石材産業協会が2004年より始めている検定です。

近年、インターネット等でお墓に関する様々な情報が氾濫する中、お墓に関する正しい知識や情報をお客様に提供し、一生に一度の買い物とされるお墓づくりをしっかりとサポートできる人材を育成し信頼向上を目的としたこの検定に、社長、専務、そして私が受験いたしました。社長は前回の同検定において2級を取得していたので1級を受験し、専務と私は2級を受験しました。

検定のために約2ヵ月ほど前の昨年11月頃から勉強をスタートさせました。検定にはテキストがあり、何百ページもある分厚い本を読むことから始まりました。

入社してまだ一年に満たない私にとってそれはまさに未知の世界との遭遇でした。読めば理解できるものもありましたが、文字だけ見てもまったく理解ができず、チンプンカンプンなものもあり、社長やベテランの石田さんにお昼休憩や空いた時間を見つけては解説をしてもらいました。社長や専務も仕事が終わってから毎日夜遅くまで自宅でテキストとにらめっこしていたそうです。2級試験は問題形式のテストだけなのですが、1級試験にはこれにさらに、お墓に関する題目の小論文が追加されているので社長は寝る間も惜しんで机に向かっていました。

そしてついに検定当日となり、アガリ症な私は非常に緊張してしまい検定開始と同時に頭が真っ白になってしまいましたが、深く深呼吸をし問題をしっかりと読み1つ1つ正確に答えいき無事検定を終えることが出来ました。社長も専務も「手応えありやな。」と自信のある顔で言っていました。検定より約1年半、先日日本石材産業協会より合否判定の通知が送られてきました。結果は……見事3人とも合格することが出来ました。何か目標を決めそれに向かって努力し結果となって返って来るとい事は非常に嬉しく達成感を感じました。まだまだ勉強中の身ですが読者の皆様へこの試験で得た知識や情報を役立てればよいなと考えていますのでお墓に関する質問などございましたら答えられる範囲の中でお答えさせていただきます。宜しくお願い致します。



↑検定用のテキストです。約700ページあります(´_`)

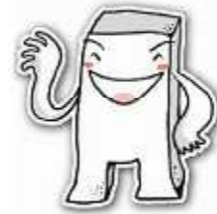


これが解ければあなたもお墓ディレクター！

正誤判定の問題です。正しいものには○を、間違っているものには×をつけて下さい。

- ① 日本では3月と9月の春分の日・秋分の日を「彼岸の中日」としてお墓参りをする習慣があります。では、この習慣は他の仏教国にはない日本独自の行事である、というのは正しいでしょうか。
- ② 「国民の祝日に関する法律」には春分の日を「祖先をうやまい、亡くなった人を偲ぶ日」と定めているというのは正しいでしょうか。
- ③ 今日でも使われる「お中元」という言葉は中国のお盆行事からもたらされた言葉で、元々は中国の道教にある「三元」という考えから出たものである、というのは正しいでしょうか。
- ④ 婚姻届は提出していないものの、お墓の所有者と長年内縁の妻として同居生活してきた女性であれば、お墓の所有者が死亡した場合で他に相続人がいなければ、お墓の所有権を相続により取得することがあり得る、というのは正しいでしょうか。

正解と解説は右のページにて！



**せきやんが答えます！
～Q&Aのコーナー～**

Q：お骨壺って一人のお骨なのに
どうして大きさの違う二つの
壺に分けるの？

はじめまして！これから小路口石材のマスコットとしてみなさんの質問にどんどん答えていきますさかいに、よろしゅう頼みます！！ちなみにワシ、ここの社長が書いてるような堅苦しい言葉づかいは苦手やさかい、そのへんもよろしゅうに。

ほなお寄せ頂いた質問に答えていきましょかあ！・・・ふむふむ・・・なかなか最初からええ質問やねえ～。皆さん、関西の方は当たり前やと思てはる人が多いと思うけど、実はこれ地方によって色々な習慣があるんですわ。ちなみに関東の方では大きい壺1つに全てのお骨を納めるっていうのが一般的や。なぜこのような違いがあるか、これは関西と関東の『死生観』の違いなんですわ。関西では喉仏を本骨として胸骨と分けて壺に納めるのは、火葬して成仏すると人は靈魂や仏さんといった実体のない存在に変わってしまう、つまり身体と靈魂の分離という観念なんです。拾骨の時に全部のお骨を拾わずに一部を残したまま、という残骨へのこだわりのなさもこういった観念を持つ関西の人の習慣なんですわ。

逆に関東の方では関西のように靈魂になるという考え方ではなく、あくまでも遺骨は死者そのものという考え方からお骨は灰まで全て骨壺に納めるというのが一般的な習慣になっていて、大きな壺が必要になって尚かつ本骨と胸骨を分けることもないんですわ。

補足ですけど、お墓に納めるのもこういった観念の違いから関西ではお骨は土にかえずという意味で骨壺からお骨を出して納めるけど、関東では骨壺のまま納めるんですわ。

まあ、諸説あるんでこれが絶対に正しい！ゆうことはないんやけどね、あくまで有力説やと思て下さい。ほな、今回はこれにて(´_`)

皆さまのご質問、ともしお待ちしております！

今月のお墓掃除活動記

巻石に付着した水アカやコケのお掃除をさせて頂きました。割合、木が生い茂っている墓地で多いこの汚れです。タワシでの水洗いでけっこう落ちますが、専用洗剤を使うとこんなに綺麗になり、お客様にも喜んで頂くことが出来ました！

担当：深井 祐子



これが解ければあなたもお墓ディレクター 解答編

- ① ○ お彼岸はインドにも中国にもない、日本独自の仏教行事です。
- ② × 春分ではなく秋分です。春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」と定められています。
- ③ ○ 中国で7月15日は道教の「中元」にあたります。中元は「三元」といって1月15日の「上元」、10月15日の「下元」とともにそれぞれ天官・地官・水官の誕生日にあたり、この日は道教のお寺に大勢の民衆が集まって罪の懺悔をします。特に7月15日の中元は盂蘭盆会と同じ日なので、早くから道教の信者だけでなく、仏教徒達も一堂に集まる行事となったことが日本に伝えられ、現在のお盆行事の由来とされています。
- ④ × 内縁の妻には相続権が認められていません。内縁の妻とは、妻としての実態のもとに暮らしていても戸籍上には記載されていない女性をいい、相続権が認められていません。他に相続人がいない場合に特別縁故者として財産が与えられることがあるだけです。「民法958条の3項」